

## 気候変動への対応

# TCFDフレームワークに基づいた情報開示



気候変動が社会に与える影響は大きく、ホシザキグループとしても取り組むべき重要な社会課題だと捉えています。脱炭素社会の実現に向け、ホシザキは2030年の中間目標として事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量（スコープ1&2）の50%削減（2014年実績比）を目指します。2050年のカーボンニュートラルに向けて環境負荷低減を実現する製品・サービスの提供、環境技術の開発を推進しています。2022年2月にTCFD提言への賛同を表明、株主・投資家をはじめとするさまざまなステークホルダーとの良好なコミュニケーションのため、TCFDフレームワークに基づき情報開示を進めてまいります。

## ガバナンス

### サステナビリティ推進体制

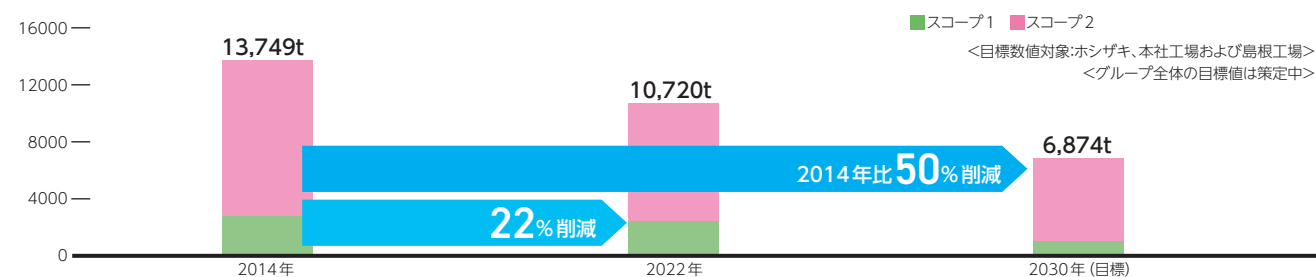
気候変動対応を含む社会・環境全般に関わる課題対応を推進する機関としてサステナビリティ委員会を2022年6月に設置しています。定期的に開催される委員会では、議論するテーマに応じて事業部門の責任者も加えて、サステナビリティ課題を横断的に検討・議論していく体制を整えています（参照p.51）。

サステナビリティ委員会は四半期に1度を目途に開催され、その審議結果を含めて経営会議および取締役会に都度進捗報告をおこないます。気候変動に関する事業リスクは取締役会の諮問委員会であるコンプライアンス・リスク管理委員会と共有しており、適宜必要に応じて取締役会に上申されます。

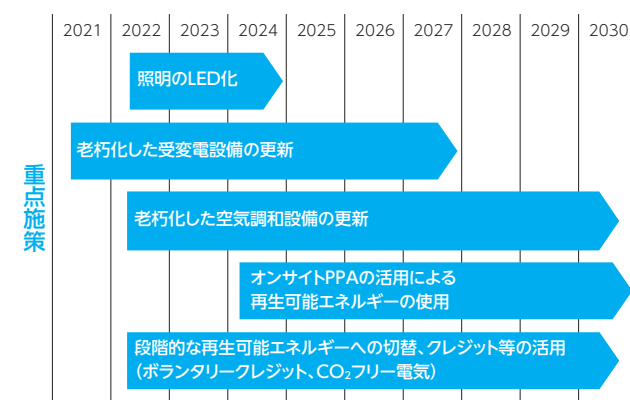
## 指標と目標

ホシザキグループは、2050年に事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量（スコープ1&2）を実質ゼロとすることを目指し、徹底した省エネ活動や再生エネルギーの積極的な利活用を推進していきます。

### CO<sub>2</sub>排出量（スコープ1&2）削減中間（2030年）目標値



### 目標達成に向けた重点施策



### 2022年度CO<sub>2</sub>排出量（スコープ1&2）実績（t-CO<sub>2</sub>）

	2014年	2022年
ホシザキ	13,749	10,720
国内販売会社	—	18,437
海外製造会社*1	—	27,401

\*1 2022年7月に買収のプレマは除く

## 戦略

### 気候変動に対するシナリオ分析

ホシザキでは、将来における気温上昇のシナリオとして、2℃と4℃の温度帯を想定し、2030年および2050年におけるシナリオ分析を実施しています。

財務影響度はリスク・機会の期間収益への影響度と発生可能性によりそれぞれ3段階で評価しています。

### 気候変動リスク・機会が財務に及ぼす影響と対応策

		影響度	発生可能性	対応策	2022年における実績
2℃シナリオ	リスク	大	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>VA (Value Analysis) コストダウン活動 (部品点数の削減、部材・部品の見直し)</li> <li>調達先分散化、戦略的製品価格改定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的コストダウン活動による部材価格高騰影響の低減</li> <li>国内外での戦略的価格改定 (国内6月、海外随時)</li> <li>電力削減に向けた設備投資計画の策定 (24年本社工場および島根工場にソーラーパネル設置予定、計画的設備更新による省電力化)</li> <li>国内市場に普及価格の自然冷媒冷蔵庫早期リリースを計画、着手 (23年リリース)</li> </ul>
		中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然冷媒製品のラインナップ拡充 (冷蔵庫、製氷機などの主要機種をはじめ、冷媒使用製品の自然冷媒化を推進)</li> <li>開発リードタイム短縮活動</li> <li>自然冷媒製品の研究開発への計画的な投資と製品設計</li> </ul>	
		小	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場の電力使用量削減活動 (ソーラーパネルなど自家発電設備への計画的投資)</li> <li>外部電力の再生可能エネルギーの使用比率向上</li> </ul>	
	機会	大	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然冷媒製品の開発およびラインナップ拡充</li> <li>製品の脱GHG・脱炭素化 (原料調達、製造過程、使用過程含む)</li> </ul>	
		大	低	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温上昇による影響度が高いエリアへのコールドチェーン製品拡充および進出</li> </ul>	
		中	高	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルチェンジなどでの製品の電力使用量削減 (製氷機、冷蔵庫など)・使用水量削減 (製氷機、食器洗浄機など)</li> </ul>	
4℃シナリオ	リスク	小	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>可燃性自然冷媒を使用しているため、客先における可燃性ガスの漏えいモニタリング、点検サービスの需要増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内市場に自然冷媒冷蔵庫リリース開始</li> <li>海外での自然冷媒化製品比率向上</li> <li>プレマ買収による製氷機市場拡大 (南欧のみでなく欧州全域をカバー)</li> <li>ホシザキコネク ト Wi-Fi の先行トライ (約 2,000 台の市場製品に取付)</li> </ul>
		中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客チャネル拡大 (飲食外市場、特に流通販売業、加工販売業、基幹産業、病院・老健に注力)</li> </ul>	
		中	低	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーン寸断による原材料調達コストの上昇</li> </ul>	
	機会	小	低	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続計画 (BCP) *2 対策費用の増加</li> <li>グローバル拠点 (製造、販売) における BCP の明確化</li> <li>部材調達面での BCP としての調達先分散化</li> </ul>	
		大	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温上昇による食品冷蔵、食用や業務用の氷の需要増加</li> <li>衛生製品の需要増加</li> </ul>	
		中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛暑による厨房環境悪化、人手不足による厨房自動化、リモート操作・サポート需要の増加</li> </ul>	
中	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害などによる製品メンテナンス需要増加</li> </ul>			

\*2 事業継続計画 (BCP) : Business Continuity Plan の略で緊急事態発生時の事業継続策

## リスク管理

気候変動に関する企画・立案、管理については、サステナビリティ委員会がこれをおこない、全社的な気候変動への対応を推進しています。

サステナビリティ委員会は、気候変動に関する自社への影響を評価・識別し、管理しています。また、特定した気候変動への影響については、必要に応じてコンプライアンス・リスク管理委員会と情報共有することで、気候変動の影響を全社リスクに統合する役割を担っています。